



故正三位勲一等中村幸之助銀杯下賜ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年一月二十日

内閣總理大臣小磯國昭



内

閣

昭和二十年一月十九日

昭和三十二年一月十九日

内閣總理大臣

賞勳局總裁

故正三位勲一等中村幸之助ハ明治三十二年九月以來東京工業大學ノ前身タル東京工業學校及東京高等工業學校各教授ニ任セラレ電氣機械ニ關スル講義ヲ擔當シテ多數生徒ノ教育ニ携ハリ大正十五年六月同校長兼教授ニ任セララルルヤ銳意校是ノ實行ヲ期シテ校地並ニ設備ノ完成ニ全カヲ傾注シ昭和四

賞勳局

年四月同校ノ大學ニ昇格ト共ニ東京工業大學長兼教授ト爲リ創設當初ニ於ケル施設經營ニ任シ大學ノ基礎確立ト内容ノ充實トニ盡瘁シ更ニ各種擴張改善ヲ策シ着々之ヲ實現シ同十七年三月退官シタルモノニシテ我國工業ノ進展並ニ工業教育上ニ貢獻スル所尠カラス其ノ功績顯著ノ者ニ候處本月十一日死去セル趣ニ付此際特ニ銀杯壹組(第三號)下賜セラレ度此段允裁ヲ仰ク

昭和二十年一月十九日
201/19

追テ本件、賞賜ニ付テハ主務省ト協議
濟ニ有之候

内閣

改正三位勳一等

中村

辛之助

右ハ明治三十二年九月以來東京工業大學ノ前身タル東京工業學校及東京高等工業學校ノ各教授ニ任セラレ電氣機械ニ關スル造詣深ク斯學ノ講義ヲ擔當シテ多數生徒ノ教育ニ携ハリ門下ニ對スル情誼極ノテ厚ク其ノ謙嚴ニシテ公平無私ノ人格ハ教育者ノ典型ト稱セラレ感化ノ及ブトコロ鮮少ナラズ又電氣科長トシテハ熱心科務ヲ掌理シ同科ノ擴張ト施設上ニ幾多ノ改善ヲ圖リ大正九年教務部長及附屬工業教員養成所主事ヲ兼マルニ至リテハ克ク校長ヲ輔佐シ校務ノ遂行ニ寄與シタルトコロ尠カラズ次テ大正十五年六月東京高等工業學校校長兼同教授ニ任ゼラルルヤ銳意校是ノ實行ヲ期シ校地並ニ設備ノ完成ニ全力ヲ傾注シテ其ノ責務ヲ完遂シ昭和四年四月同校ノ昇格ト共ニ東京工業大學校長兼同教授ニ任ゼラレ創設當初ニ於ケル施設經營ニ關シ極メテ周到綿密ナル計畫ヲ樹立シ大學ノ基礎確

文部省

立ト内容ノ充實トニ努力腐心シ更ニ時代ノ進運ニ伴ヒ各種ノ擴張改善ヲ策シ着々之ヲ實現シ以テ我國工業ノ進展並ニ工業教育上ニ貢獻セルトコロ眞ニ多大ナルモノアリ今同人ノ大學經營上ノ重ナル事項ヲ擧グルハ(一)大學創立當初ニ於テハ八學科七教室ナリシガ爾後航空機工學科、化學工學科、金屬工學科、燃料工學科ノ四學科ヲ新設シテ十二學科トシ(二)研究機關トシテ建築材料研究所、資源化學研究所、精密機械研究所、窯業研究所及生産工學研究所ヲ創設シ(三)附屬豫備部ヲ設置シテ外國人留學生ノ制度ヲ確立シ(四)臨時工業技術員養成所ヲ創設シテ中堅技術員ノ養成ニ關スル臨時措置ヲ講ジ(五)高等工業教員養成所ヲ設立シテ工業教育者ノ資質ノ向上ヲ圖リ(六)敷地ヲ整備シテ大學綜合建築計畫實施ノ基本ヲ整へ建築物ノ建築並ニ土地利用上ノ効率ヲ昂進セシメ(七)大學建築事務ノ委任ヲ受ケテ復興建築ノ直營事業ヲ實施シ(八)工業調査部ヲ設置シテ工業ニ關スル各般ノ調査研究ヲ爲シ以テ工業上ノ進歩發達ニ資シ(九)受託研究事業ヲ開始シテ業界ヲ指導シ新工業ノ誘致展開ヲ圖リ(十)學校ノ收容力ヲ増加シテ



めくれず

生産力擴充ニ伴フ人的資源ノ需要ニ應ジ(一)山岳並ニ海濱ニ於ケル保健施設ヲナシ(二)學科課程ノ根本的改正ヲ實施シ(三)學費ヲ擴大シテ教官ノ研究ニ寄與セル等ナリ

斯ノ如ク同人ハ前身學校ヨリ引續キ現東京工業大學ニ四十二年餘ノ久シキニ亘リテ在職シ終始一貫工業學界並ニ工業教育界ニ盡瘁シ功績洵ニ顯著ナルヲ確認ス昭和十七年三月其ノ退官ニ際シテ大學長トシテ前例ニナキ親任官ノ待遇ヲ賜ハリ又次テ東京工業大學名譽教授ノ名稱ヲ授ケラレタル等其ノ業績ノ格出セルヲ窺知シ得ベシ然ルニ本月十一日病ヲ以テ薨去セルニ付此ノ際特ニ生前ニ邁リ旭日大綬章加授ノ榮ヲ與ヘラルル様御詮議相成度

右稟申ス

昭和二十年一月十五日

文部大臣 二宮 治重



文部省

内閣總理大臣 小磯 國昭 殿

功績調書

東京工業大學^{么冬ね後}長正三位勳一等 中村幸之助

工業教育壇學界ニ盡瘁シタル功績顯著ナルコト

明治三十二年九月本學ノ前身タル東京工業學校教授ニ任セラレ電氣機
械ニ關スル造詣深ク爾來斯學ノ講義ヲ擔任シテ多數ノ生徒ヲ教養シ師
弟ノ情誼極メテ厚ク勳モスレハ知能ノ取引ニ過キサルノ憾アル現代ニ
於テ其ノ師弟關係ハ斷然一頭地ヲ拔クモノアリ而シテ常ニ身ヲ持スル
ヤ謹嚴、行フ所秉公教育者ノ典型ニシテ其ノ感化ノ及ヒシ所鮮少ナリ
トセス又他面電氣科長トシテ科務ヲ掌理シ同科ノ擴張ト施設上幾多ノ
改善ヲ圖リ大正九年教務部長及附屬工業教員養成所主事ヲ兼ルニ至リ
同校及養成所ノ重要ナル事務ヲ掌リ校長ヲ輔佐シテ校務ノ遂行ニ寄與

東京工業大學

以下添附書類

功績調書

東京工業大學（本校）正三位勳一等

中村幸之助

以下添附書類

業教育勲學界ニ盡瘁シタル功績顯著ナルコト
 三十二年九月本學ノ前身タル東京工業學校教授ニ任セラレ電氣機
 ニ關スル造詣深ク爾來斯學ノ講義ヲ擔任シテ多數ノ生徒ヲ教養シ師
 ノ情誼極メテ厚ク動モスレハ知能ノ取引ニ過キササルノ譽アル現代ニ
 テ其ノ師弟關係ハ斷然一頭地ヲ拔クモノアリ而シテ常ニ身ヲ持スル
 謹嚴、行フ所秉公教育者ノ典型ニシテ其ノ感化ノ及ヒシ所鮮少ナリ
 セス又他面電氣科長トシテ科務ヲ掌理シ同科ノ擴張ト施設上幾多ノ
 善ヲ圖リ大正九年教務部長及附屬工業教員養成所主事ヲ兼ルニ至リ
 校及養成所ノ重要ナル事務ヲ掌リ校長ヲ輔佐シテ校務ノ遂行ニ寄與

裏面白紙

東京工業大學

功績類書

東京工業大學^{校長}正三位勳

勳章

工業教育壇學界ニ盡瘁シタル功績顯著ナ
 明治三十二年九月本學ノ前身タル東京工業學校教授ニ任セラレ電氣機
 械ニ關スル造詣深ク爾來斯學ノ講義ヲ擔任シテ多數ノ生徒ヲ教養シ師
 弟ノ情誼極メテ厚ク動モスレハ知能ノ取引ニ過キサルノ慥アル現代ニ
 於テ其ノ師弟關係ハ斷然一頭地ヲ拔クモノアリ而シテ常ニ身ヲ持スル
 ヲ謹嚴、行フ所秉公教育者ノ典型ニシテ其ノ感化ノ及ヒシ所鮮少ナリ
 トセス又他面電氣科長トシテ科務ヲ掌理シ同科ノ擴張ト施設上幾多ノ
 改善ヲ圖リ大正九年教務部長及附屬工業教員養成所主事ヲ兼ルニ至リ
 同校及養成所ノ重要ナル事務ヲ掌リ校長ヲ輔佐シテ校務ノ遂行ニ寄與

シタル所勤カラス更ニ進ンテ大正五年六月三十日同校々長兼教授ニ任
 セラル、ヤ銳意校是ノ遂行ニ磨リテ其ノ責務ヲ全フシ昭和四年四月一
 日同校ノ昇格ト共ニ東京工業大學長トナリ創設計畫ヲナスノ外教授ヲ
 兼任シテ電氣機械器具ニ關スル講義ヲ兼擔シ學生ノ育成ヲ爲スコト實
 ニ四十餘年ニ及ヘリ如斯教育行政ニ將又學生々徒ノ教育ニ没頭スルノ
 傍ラ照明學會々長又ハ電氣學會長トシテ盡瘁シ其ノ他學術上ノ協會若
 ハ團體ニ關係シテ斯學會ノ進歩發達ニ貢獻シタル功績モ亦寔ニ顯著ナ
 リトス

ニ、教育行政ニ關スル效績顯著ナルコト

(一) 元東京高等工業學校長時代

大正十二年九月一日關東大震災ニ同校ハ罹災シ校舍其ノ他烏有ニ歸
 シタルヲ以テ前吉武校長時代ニ於テ現地ニ移轉實施ノ權限ニ參畫シ

又大正十五年六月三十日校長ニ就任スルヤ銳意校地並設備ノ完成ニ
全力ヲ傾注シ以テ大學昇格後ニ於テモ其ノ内容等他ニ遜色ナカラシ
ムル様只管之カ準備ニ務メ本邦唯一ノ工業大學トシテノ素地ヲ形成
シタル效績實ニ多大ナリトス

(二) 東京工業大學長時代

昭和四年四月一日東京工業大學創設セラル、ヤ大學長兼教授ニ任セ
ラレ其ノ施設計畫ニ關シ極メテ周到綿密ナル計畫ヲ樹立シ以テ内容
ノ充實ニ留意シ又時代ノ進運ニ伴フ擴張計畫ヲ施策シ著々之ヲ實現
シテ我國工業ノ進展並ニ工業教育上ニ貢獻セルコト鮮少ナラサルニ
依リ今其ノ主ナル事項ニ就説明スレバ左ノ如シ

1 創設準備事務開始並八學科七教室ノ設置

就任ト共ニ創設事務ヲ開始シ染料化學科、紡織學科、蠶業學科、

應用化學科、電氣化學科、機械工學科、電氣工學科及建築學科ノ
八學科竝ニ數學、物理、物理化學、分析化學、無機化學、有機化
學、化學工學ノ七教室ヲ設置スルコトニ根本方針ヲ決定シ又教官
ハ極力斯學ノ權威者ヲ任用シ以テ工業大學トシテ遺傳ナキヲ期セ
リ

敷地ノ整備

敷地ハ極メテ不正形ニシテ高低起伏アリ且ツ中間ニ民有地介在シ
テ之カ利用上ニ關シ甚敷不便ヲ感シタリシヲ以テ中間民有地ノ取
得ニ依リ敷地ノ整備ヲ圖ル計畫ヲ樹テ其ノ實施上幾多困難ナル事
情アリシニ不拘之ヲ徹底的ニ排除シテ所期ノ計畫ヲ斷行シ以テ大
學ノ綜合建築計畫實施ノ基本ヲ整へ建造物ノ建設竝ニ土地利用上
ノ効率ヲ昂進シタリ

3 學生指導、授業訓育陣ノ強化

昭和五年度豫算計畫ニ於テ教授、助教授各五人ヲ増員シ且ツ學生主事ヲ設定シ同時ニ之等ノ補助機關ヲ増設シテ學生ノ指導、授業及訓育陣ノ強化ヲ圖リタリ

4 大學建築事務ノ委任ヲ受ケ復興建築ノ直營事業實施

昭和六年二月震災復興事業執行ノ委任ヲ受ケ之ヲ掌理セシムヘキ復興部ヲ設置シ部長以下ノ職員ヲ命シテ其ノ陣容ヲ整ヘ以來之ヲ督勵シテ事業ノ遂行ニ努メタル結果本館ヲ始メ其ノ他モ漸次竣成シ該事業ノ完成ヲ見ルモ遠キニアラサルヘシ

5 建築材料研究所ノ創設

建築材料ノ研究ハ其ノ種類内容複雑ニシテ一専門學術ノ範圍ニ止マラス各種ノ工學理學及化學方面ノ協力ニ依ル綜合的研究ニ俟ツ

ニアラサレハ到底之カ完壁ヲ期スルコト能ハサルモノトス本學ハ幸ヒ敍上ノ各專門ノ學者ヲ網羅セルヲ以テ昭和七年度豫算ニ於テ之カ創設費豫算ヲ認容セラレ同年九月建設工事ニ着手シ之カ完了ト共ニ同九年二月二十八日官制改正ニ依リ建築材料研究所ヲ本學ニ附屬セラル、ニ至レリ單科大學ニ研究所ヲ附屬セラレタルハ蓋シ之ヲ以テ嚆矢トス

6 外國人留學生ノ制度化

從來本學ニ入學セントスル外國人留學生ノ爲特設豫科ヲ設ケ之カ教育ニ膺リシモ逐年中華民國及滿洲國留學生ノ外東亞ノ諸外國ヨリ派遣セラル、留學生等ノ増加ニ伴ヒ南方政策遂行上ヨリ視ルモ廣ク門戸ヲ開放スルノ必要ヲ認ノ是等志望者ニ高等學校程度ノ教育ヲ施ス爲官立工業大學官制ヲ改正シテ之ヲ制度化シ附屬豫備部

ヲ設置シ更ニ昭和十二年度ニ於テハ學生ノ收容力ヲ増加擴張セリ
7 工業調査部ノ設置

我國ニ於ケル工業ニ關スル各般ノ調査研究ヲ爲シ以テ工業上ノ進
歩發達ニ資シ併セテ經營上ニ貢獻スル爲昭和九年四月十日工業調
査部ヲ特設シテ時代ノ要求ニ副フコト、セリ

8 精密機械研究所ノ創設

我國ノ機械工業ハ近時著シキ發展ヲ遂ケ歐米諸國ト比肩スルニ至
レリト雖工業ノ進展上最モ重要ナル關係ヲ有スル精密機械ニ關ス
ル研究ニ至リテハ全ク其ノ施設ヲ缺キ僅カニ一講座トシテ其ノ研
究施設ヲ有スルニ過キサルニ依リ之ヲ綜合統一シタル研究機關ノ
必要ヲ痛感シ昭和十二年度豫算ニ於テ之カ創設費豫算ヲ認容セラ
レ昭和十四年十二月二十八日官制改正ニ依リ精密機械研究所ヲ本

學ニ附屬セラレタリ

9 受託研究事業ノ開始

本學ハ工業開發上緊密ナル關係ヲ有スル各種ノ學科アリテ之カ應用ニ關スル研究施設ト研究ノ結果ヲ工業化スル技能ト學力ヲ有スル新界ノ權威者ヲ多數網羅セルヲ以テ業界ノ要請ニ依リ各般ニ亘ル研究ノ委託ヲ受ケ其ノ學理的ノ基本及産業的價値ヲ闡明シ之カ工業化ヲ指導シ新工業ノ創出ヲ誘導シテ産業上ノ助長發達ニ寄與スルノ施設ヲ講シタリ

10 航空機工學科ノ創設

平時戰時共ニ重要ナル役割ヲ演スル航空機ニ關スル研究ト技術者ノ養成トハ最緊急ナルニ不拘之カ機關ハ甚ニ寥々タルモノニシテ新業ノ發達ヲ助成スルコト能ハサル憾アルヲ以テ本學ハ昭和十三

年度ニ於テ該學科ノ創設ヲ計畫シテ之カ設備ヲ爲シ昭和十四年度ヨリ授業ヲ開始シタリ

11 資源化學研究所ノ創設

我國ノ如ク物資ニ乏シク産業及國防國策ノ遂行上最モ緊要ナル新興工業ノ創始及既存工業ノ改善刷新ヲ圖リ之カ躍進ヲ企圖スルハ刻下ノ喫緊ノ要務ナリト云ハサルヘカラス仍テ組織的系統的ノ研究機關ヲ特設スルノ必要ヲ認メ昭和十三年度豫算ニ於テ之カ豫算ノ認容ヲ得テ昭和十四年二月二十二日官制改正ニ依リ資源化學研究所ヲ本學ニ附屬セラレタリ

12 臨時工業技術員養成所ノ創設

生産力擴充ニ伴フ人的要素擴充ノ爲中堅技術員養成ノ急務ナルヲ痛感シ昭和十三年度ニ於テ機械技術員ヲ昭和十四年度ニ於テ化學

技術員ヲ又昭和十五年度ニ於テ窯業技術員ヲ養成スル爲臨時工業技術員養成所ヲ創設シタリ

13 化學工學科ノ創設

我國ニ於ケル研究ノ結果ヲ實際化ニ際シ常時設計裝置又ハ機構等ノ輸入ヲ國外ニ仰キシ原因ハ化學工業ニ關スル研究並人材ノ養成ニ於テ缺陷アリシニ由ル所ナルヘシ本學ハ斯學ノ研究上密接ナル學問的關聯ヲ有スル機械工學科、應用化學科ヲ始トシ各種ノ學科教室及研究所等ヲ併置シアルヲ以テ本邦最初ノ化學工學科ノ授業及研究機關ヲ新設シ優秀ナル技術者ノ養成ニ努メ以テ斯界ノ要望ヲ充スト共ニ斯業ノ躍進的助長發達ヲ企圖シ昭和十四年度ニ於テ該學科ノ設置ヲ決定シ昭和十五年度ヨリ授業ヲ開始シタリ

14 學生收容力ノ増加

重工業ノ發達ニ伴ヒ卒業生採用ノ申込ハ卒業生數ヲ遙カニ凌駕シ甚敷ハ數倍又ハ數十倍ニ達スル盛況ナルヲ以テ其ノ供給ヲナスハ列下ノ適切緊要ナル事項ナリト認メ機械工學科、電氣工學科、應用化學科、電氣化學科、藥業學科、染料化學科及建築學科ヲ通シ昭和十四年度以降ニ於テ三回ニ亘リ約八十五人ノ増加收容スルノ施設ヲ講シタリ

15 山岳保健施設ノ整備

昭和十一年十月群馬縣吾妻郡吾妻村ニ五千八百八十坪ヲ獲得セルノ外一萬坪ヲ永年無償使用ノ條件ノ下ニ宿舍等ヲ建設シテ之ヲ整備シ以テ學生々徒ノ保健衛生及體育獎勵並訓練實施等ニ資スルノ施設ヲ講シタリ

16 海濱體育衛生施設

昭和十二年一月茨城縣下大貫町ニ三千三百坪ヲ獲得シ宿舍並附帯施設ヲ行ヒ學生々徒ノ保健衛生及体育奨励並訓練實施等ニ資スルノ施設ヲ講シタリ

17 委託研究員養成制度ノ開始

工業ニ關スル特殊事項ニ付研究員ノ指導養成ノ委託ヲ受クル制度ヲ確立シ昭和十五年度ヨリ之ヲ實施シタリ

18 金屬工學科ノ創設

生産力補充ニ伴ヒ金屬工學ヲ修得シタル技術員ノ急需ニ鑑ミ本學ハ金屬工學科ヲ設置スル爲昭和十五年度豫算ニ於テ創設費豫算ノ認容ヲ得テ昭和十六年度ヨリ授業ヲ開始シタリ

19 燃料工學科ノ創設

燃料ニ關スル技術員甚數不足ノ實狀ニ鑑ミ本學ハ燃料工學科ヲ設

置スル爲昭和十五年度豫算ニ於テ創設費豫算ノ認容ヲ得テ昭和十六年度ヨリ授業ヲ開始シタリ

20 奨學費擴大ノ施設實施

本學教官又ハ在職者ノ研究ヲ助成スル爲各種研究費ノ獲得ニ努メ大ニ之ヲ奨勵シテ之カ結果ノ發表ヲ助成シ工業上ノ發達ニ寄與セラルコト多大ナリ即チ昭和十五年度ニ於テハ本學創立六十年ニ相當スル爲記念奨學費ノ獲得ニ努メ總額百六十萬圓ヲ集積シ得タルカ如キ其ノ顯著ナル事例ニシテ昭和四年四月昇格ノ際二十萬圓ナリシ處現在ニ於テハ既ニ貳百五十八萬餘圓ニ達シタル實狀ナリ

21 生産工學研究所ノ創設

生産工學ニ關スル學理ノ探究ト其ノ應用ニ關スル研究ヲ行フハ我國現下ノ國家的要請ニ應スル所以ナルヲ以テ本學ニ生産工學研究

裏面白紙

東京工業大學

49

所ヲ附屬セシムル爲昭和十六年度ニ於テ之カ核算ノ認容ヲ得テ目
下創設準備中ナリ

22 学科課程ノ改訂

時勢ノ進運ニ即スルカ如ク学科課程全般ニ亘リ根本的ノ再檢討ヲ
企テ徹底的ナル吟味ヲナシ昭和十六年十月漸ク其ノ成案ヲ得テ改
正シ昭和十七年度ヨリ之カ實施ヲ爲スコト、シタリ

23 産業研究所ノ創設

國防及産業上最必要ナル産業ニ關スル特設研究機關ナキヲ遺憾ト
シ本學ニ産業研究所ヲ附屬セシムル爲昭和十七年度預算ニ於テ之
カ認容ヲ得目下創設準備中ナリ

24 高等工業教員養成所創設

工業教育振興ノ重要性ニ鑑ミ教員擔當者ノ養育ニ幸ヲ圖リ伊テ不

(11)

裏面白紙

東京工業大學

三、其ノ他

足補元ヲ策スルハ刻下喫緊ノ要務ナルヲ以テ本學ニ附屬高等工業
教員養成所ヲ創設シ昭和十七年度ヨリ授業ヲ開始スルコト、シタ

(一) 事務機材ノ改善整備ヲ圖リ部下ヲ統制シテ大學ノ管理經營ニ關スル
各般ノ施設ヲ行ヒ運用上ノ圓滑ヲ期シタリ

(二) 學内福利共済施設ノ整備

在職者ニ對スル福利共済ノ施設トシテ工友會ヲ創設シ相互扶助、健
康保衛、貯蓄ノ奨励、簡易金融、食事及備品ノ安易供給等ノ事業ヲ
實施シタリ

裏面白紙

東京工業大學

履 歴 書

中 村 幸 之 助
明治五年六月十六日生

本籍地 東京市本郷區駒込林町二二六番地
現住所 東京市本郷區駒込林町二二六番地

年 號	月 日	事 項	官 銜 名
明治二十八年	七月	第二高等學校大學豫科第二部卒業	
同 三十一年	七月	東京帝國大學電氣工學科卒業	
同	同	電力輸送事項研究ノ爲同大學大學院へ入學	
同 三十二年	九月五日	任東京工業學校教授	

111

51

同	同	同	同	同	同	同	同	同
年	年	年	年	年	年	年	年	年
七月四日	六月三日	二月二十八日	八月三十一日	五月十一日	四月二十四日	三月三十一日	二月二十日	十月二十日
九級俸下賜	歸朝	外國留學中俸給三分ノ一ヲ支給ス	敘正七位	東京高等工業學校ト改稱	陸軍高等官六等	任地出發	電氣ヲ動力ニ應用シ及電氣機械製造法研究ノ爲滿二年間英、獨、瑞、米四ヶ國へ留學ヲ命ス	敘從七位
文部省	文部省	宮内省	宮内省	内閣	内閣	文部省	文部省	宮内省
								文部省

東京工業大學

裏面白紙

同 年	同 四十四年	同 四十三年	同 四十一年	同 年	同 四十年	同 年	同 三十九年	同 年	同 三十六年	同 年
七月三十一日	五月二十九日	四月一日	三月十七日	六月七日	三月十一日	十二月十日	四月二十日	十一月二十日	九月	八月十二日
敍從五位	陞敍高等官三等	高等官官等俸給令改正(一、五〇〇)	敍高等官四等	兼任特許局審査官	七級俸下賜	敍正六位	陞敍高等官四等	八級俸下賜	敍從六位	東京帝國大學大學院退學(滿期) 陞敍高等官五等
宮内省	内閣		内閣		文部省	宮内省	内閣	文部省	宮内省	内閣

東京工業大學

裏面白紙

53

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
十二月二十七日	十二月二十八日	十月十日	六月二十一日	四月二月	六月二十日	四月十五日	六月十八日	十二月十八日	二月十八日	一月一日	十月五日
五級特下賜	依願免兼官	ル	大正四年勅令第五百十四號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラ	實業學科教員夏期講習會講師ヲ囑託ス	歐米各國へ出張被仰付	東京大正博覽會審査官ヲ囑託ス	實業學科教員夏期講習會講師ヲ囑託ス	敍勳六等授瑞寶章	六級特下賜	電氣學業主任技術者資格檢定委員ヲ囑託ス	電氣學業主任技術者資格檢定委員ヲ囑託ス
文部省	内閣省	賞勳局	文部省	内閣省	農商務省	文部省	賞勳局	文部省	文部省	文部省	遞信省

東京工業大學

裏面白紙

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
年	年	年	八年	年	年	年	年	年	年	六年	五年
六月二十八日	四月二十二日	三月二十九日	二月十日	九月三日	八月六日	二月七日	二月二十一日	七月十七日	五月十四日	二月二十七日	十月十日
工學博士ノ學位ヲ授ク	畜産工藝博覽會審査官ヲ囑託ス	敍勳四等授瑞寶章	賜三級俸	陸敍高等官二等	工業學校電氣工學機械工學教授要項編纂委員ヲ囑託ス	第十高等工業學校創立委員ヲ囑託ス	四級俸下賜	實業學科教員夏期講習會講師ヲ囑託ス	文部省視學委員ヲ命ス	敍勳五等授瑞寶章	敍正五位
文部省	農商務省	賞勳局	文部省	内閣	同	同	同	同	文部省	賞勳局	宮内省

東京工業大學

裏面白紙

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
九年	九年	九年	十一年	十年	十年	十年	十年	十年	十年	十年	
二月五日	二月二十六日	八月十八日	九月二十日	二月二十八日	十一月二日	十一月十日	四月二十五日	八月四日	四月二十六日	六月三十日	
第十二高等工業學校創立委員ヲ囑託ス	賜二級俸	高等官官等俸給令改正	賜二級俸	東京高等工業學校附設工業教員養成所主事ヲ命ス	賜一級俸	叙從四位	兼任特許局技師	叙高等官二等	教員檢定委員會臨時委員被仰付	叙勳三等授瑞寶章	教員檢定委員會臨時委員被仰付
文	同	文	文	同	同	宮	同	同	賞	同	同
部	同	部	部	同	同	内	同	同	勳	同	同
省	同	省	省	同	同	省	同	同	局	同	同

東京工業大學

56

裏面白紙

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		十五年		年	年	十五年	年	同	同	十三年
同	同	六月三十日	同	四月二十七日	二月十二日	一月二十二日	五月二十八日	四月十一日	同	九月十一日
<p> 教員檢定委員會臨時委員被仰付 第三部々屬ヲ命ス 教員檢定委員會臨時委員被免 教員檢定委員會臨時委員被仰付 東京市本郷區駒込林町二二六番地へ移籍 教員檢定委員會臨時委員被仰付 第三部々屬ヲ命ス 任東京高等工業學校校長 敍高等官二等 賜一級俸 兼任東京高等工業學校教授 </p>										
文	内		文	内		同	同	内	文	内
部	閣		部	閣				閣	部	閣
省			省					省	省	

東京工業大學

裏面白紙

裏面白紙

東京工業大學

同 年 七月十九日	敍高等官三等 陸絛高等官一等	内閣
同 年 九月二日	東京高等工業學校附設工業教員養成所主事ヲ免ス	文部省
同 年 九月二十一日	教員檢定委員會常任委員被仰付	内閣
同 同	第三部々屬ヲ命ス	文部省
同 年 十月三十日	賜一級俸	同
同 年 十二月一日	敍正四位	宮内省
昭和二年 年 一月	社團法人電氣學會々長ニ就任	同
同 年 二月五日	財團法人協調會東京工業專修學校長ニ就任	同
同 年 七月一日	工業大學創立委員ヲ囑託ス	文部省
同 同 年 一月	社團法人電氣學會々長退任	同
同 年 十一月十日	昭和三年勅令第八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラ	文部省

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七年	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四月二十五日	年十二月十五日	年六月一日	六年六月一日	五年四月二十二日	同	年十月五日	同	年四月一日	四年三月三日
滿洲へ出張ヲ命ス	敍從三位	賜一級俸	高等官官等俸給令改正（四九二〇）	敍勳二等授瑞寶章	第三部々屬ヲ命ス	敍員檢定委員會常任委員被仰付	賜二級俸	敍高等官一等	任東京工業大學長兼東京工業大學教授
文部省	宮内省	文部省		賞勳局	文部省	内閣省	内閣省	内閣省	文部省

東京工業大學

裏面白紙

同 年 五月八日	同 年 六月九日	同 八年 四月	同 十年 三月	同 十一年 六月十一日	同 十二年 四月十五日	同 十三年 四月十五日	同 年 七月二十日	同 年 八月十日	同 年 八月十四日	同 年 八月十五日	
出 發	歸 朝	照 明 學 會 長 二 就 任	同 會 長 退 任	愛 知 縣 工 業 研 究 指 導 機 關 調 查 會 委 員 ヲ 囑 託 ス	年 俸 金 六 百 圓 加 賜	東 京 府 防 空 委 員 會 委 員 ヲ 命 ス	科 學 審 議 會 委 員 被 仰 付	科 學 振 興 調 查 會 委 員 ヲ 依 囑 ス	電 力 評 價 審 查 委 員 會 委 員 被 仰 付	科 學 振 興 調 查 會 規 程 廢 止	科 學 振 興 調 查 會 委 員 被 仰 付
愛 知 縣	文 部 省	文 部 省	內 務 省	內 務 省	內 務 省	文 部 省	內 務 省	內 務 省	內 務 省	內 務 省	內 務 省

東京工業大學

裏面白紙

裏面白紙

東京工業大學

同十四年	四月二十八日	宇部高等工業學校創立委員ヲ囑託ス	文部省
同十五年	四月一日	臨時工業技術員養成所主事ヲ命ス	東大工學部
同	四月十八日	敘勳一等授瑞寶章	賞勳局
同	八月十五日	昭和十五年勅令第四百八十八號ノ旨ニ依リ紀元二千六百年祝典記念章授與セララル	同
同	一月十五日	敘正三位	宮内省
同	三月三十日	特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ	内閣
同	三月三十一日	依願免本官並兼官	同
同	五月二十五日	東京工業大學名譽教授ノ名稱ヲ授ク	同
同	一月十一日	出資	同

(11) 裏

61